

令和 4(2022)年 3 月 1 日  
株式会社フォーバル  
海外ディビジョン

ベトナムホーチミン・マレーシア  
状況レポート(2 月)

企業経営を支援する次世代経営コンサルタント集団で、中小企業の DX アドバイザーのリーディング・プレーヤーである株式会社フォーバル(本社:東京都渋谷区、代表取締役社長:中島 将典、資本金:41 億 50 百万円、東証一部上場【証券コード:8275】)では、宮城県内企業・団体等の皆様にお役立ていただくため、弊社海外拠点があるベトナム・インドネシア・カンボジア・ミャンマーを中心に東南アジア圏それぞれの地域における、現地情報をご紹介します。今回はベトナムホーチミンとマレーシアを中心にご紹介します。

・東南アジア各国の新型コロナウイルス感染・状況

| 国      | 感染者数/1 日※   | 状況   |
|--------|---|--|
| ベトナム   | 76,216 人 増加傾向<br>(2 月 22 日～2 月 28 日の平均)<br>先月同時期対比+58,840 人 | 4P にて詳細記載  |
| インドネシア | 48,841 人 増加傾向<br>(2 月 21 日～2 月 27 日の平均)<br>先月同時期対比+44,695 人 | 2 月 8 日から首都圏では、活動の制限規制をレベル 3 まで引き上げた。店舗や公共交通機関の利用人数規制や時間制限が主な内容。                 |
| マレーシア  | 28,279 人 増加傾向<br>(2 月 22 日～2 月 28 日の平均)<br>先月同時期対比+25,135 人 | 2P にて詳細記載  |
| カンボジア  | 490 人 増加傾向<br>(2 月 21 日～2 月 27 日の平均)<br>先月同時期対比+451 人       | 無症状または軽症の陽性者は、7 日間の隔離を経た後、簡易検査により陰性が確認された場合、隔離が解除される。                            |
| ミャンマー  | 2,933 人 増加傾向<br>(2 月 21 日～2 月 27 日の平均)<br>先月同時期対比+2,764 人   | 陽性率が 1 割を超え、オミクロン感染が拡大傾向。4 月の大型連休(水掛祭り)に併せて、日本でのブースター接種等を目的に日本に一時帰国する動きが加速する見込み。 |

※出所:WHO、カンボジア保健省の情報を元に弊社作成

## ・マレーシア

### 規制とルール

マレーシア保健省は、中国製ワクチン(シノバック)接種者のブースター接種(ファイザー)の期限を3月としており、接種をしない国民に関しては、公共施設への出入りを制限すると発表しました。2月中旬から濃厚接触者は、すでにブースター接種済みで簡易テストを行い陰性だった場合は、7日間の自宅待機も不要となりました。また、間接接触者に義務付けられていたアプリ経由での10日間の問診表提出も3日間に短縮されています。政府は、パンデミックからエンデミック(風土病)への移行段階と発表しており、徐々にルールが緩和されてきています。コロナ全般を取り仕切っている保健省大臣カイリージャマルディンは、4月からの国境再開に向けた入国の際の簡素化されたルールをすでにまとめており、首相イスマイルサブリの青信号を待つのみ、と公で述べています。また、首相も先週のカンボジア外遊で5000人と言われる在住プノンペンマレーシア人に歓談の会で二国間において出入国が難しくなっている入国ルールを早期に緩和することを確約しました。ちなみに、カンボジアへの入国の際のルールは、すでにブースター接種が完了していること、到着後の簡易テストのみとなっていますが、各航空会社では搭乗前48時間以内のPCR検査レポートの提出を求められています。補足ですが、マレーシア国内でのPCR検査費用は、RM130(3500円)からRM260(7200円)、簡易テストキットは、RM4(110円)～薬局で手に入ります。

### 街中の状況

2月初旬に数千人規模であったオミクロン株新規感染者数も、半ばには1万5千人規模となり、現在も日々3万人前後を推移しています。ただ、政府がパンデミックからエンデミック(風土病)への移行段階であると度々アナウンスを行っている為、国民に悲壮感はなく、マスク着用とアプリを通しての登録を除いてコロナ前の生活スタイルにほぼ戻ってきているといえます。帰省や会食に制限が設けられない2年ぶりの旧正月(2月1日)であったため、今年の旧正月は盛大に最終日2月15日まで盛大に続けられました。恒例の獅子舞(ライオンダンス)も例年以上に各地で多く見ることができ、また住宅街の一般家庭の軒先でも非常に多く見られました。費用をかけてでも(相場は日本円で10万円前後と言われる)、「無病息災」「商売繁盛」を願う人々の気持ちが反映された旧正月となり、一見すると景気が戻ったときえ思われる街の様子になっています。

・クアラルンプール市内ショッピングモールの装飾と混雑する天后宮



## 飲食店の状況

今月は中旬まで、旧正月会食が多い月であったため、飲食店はどこも混雑していました。中華料理店だけでなく、高級和食料理店も、予約が出来ないことがほとんどでしたが、オミクロン感染者数が増えるにつれ当日キャンセルなど利用者も減少しました。

イスラム教徒は、今年は4月から断食が始まります。夜明けとともに始まる断食は、日没の7時半ころまで行われ、断食明けの夕飯では、盛大な会食が繰り広げられるのが慣例なのでハラル系レストラン、ホテル内の高級レストランでは、旧正月のような盛り上がりが見込まれています。

## 小売店の状況

先月の三井不動産による「ららぽーとKL」に続くかのように、ドン・キホーテ(東南アジアでは、ドンドンドンキ)二号店が、開店しました。場所は、KL市のベッドタウンであるペタリンジャヤ市で、2年前に建てられたローカル最大不動産会社による大型ショッピングセンター内にあり、現状では、KL市内一号店のような混雑や入場に並ぶ必要はありません。コロナルールに基づいて、1月まで夜10時閉店でしたが、2月から夜11時に延長され、現在は12時閉店と通常のオペレーションに戻っています。また、催事スペースが、1号店より大きく取っており、今後は催事を多く企画、展開する予定です。今回は、各地方のJA製品が、多く見受けられました。また、日本の和菓子&デザートフェアを催しており、現地生産製品80%に対して、日本からの冷凍デザート・解凍製品20%といった割合で販売されています。

・ドンドンドンキ二号店と催事ブース(大分県の催事が実施中)





## ・ベトナム ホーチミン

### 規制とルール

2月15日から、2回のワクチン接種完了済みの入国者に対して、3日間の隔離に緩和されました。ただし、隔離完了後にPCR検査証明書を地域自民員会に提出する必要があります。また、ベトナム滞在証明書を持つ外国人は、帰国・入国について隔離や規制などは無くコロナ前と同様になっております。ベトナム国内の規制については、マスクの着用義務と2回のワクチン接種のみになっており、規制は大幅に緩和されています。

### 街中の状況

ホーチミン市では、2月14日から児童・園児100万人以上が対面授業のため学校への登校を再開しました。対面授業が再開されたのは、小学1～5年生、中学1年生(日本の小学校6年生相当)の児童と、幼稚園(3～6歳)の園児が対象です。これに先立ち、中学2～4年生と高校1～3年生については、1月4日から対面授業の再開が許可されていました。理由としては、11歳以下のワクチン接種が行われていなかった為で、現在は5～11歳を対象とした接種に向けて検討・準備が進められています。日本のANAは、2022年2月よりベトナム行きの定期便運航、チケットの一般発売を再開しており、今後渡航者も増えることが予想されます。また、町中や各企業(中小企業)も活気を取り戻しており、道路も混雑しておりコロナ前の日常と同じになっています。

### ・ホーチミン市内の道路



## 飲食店の状況

2月のテト(旧正月)及び14日のバレンタインには、どこのレストランも満席状態になりました。人気の高い飲食店は、韓国焼肉もしくは韓国関係の料理店でした。日本食レストランでは、特に鍋料理の人气が高く、にレストラン側は、販売価格の競争が厳しい為、できるだけベトナム産の食材を仕入れて調理している傾向が見受けられました。

### ・混雑する韓国料理店



## 小売店の状況

ベトナムのバレンタインでは、男性から女性に告白若しくは贈り物をする日となっており、バレンタインデー前は、デパートやショッピングモールなどでチョコや化粧品などがピックアップして販売され、賑わいをみせました。

### ・コロナ前と同程度の賑わいを見せる小売店

